保育士における発達障害の理解について

— 自閉症スペクトラムに関する理解 —

○滋野井一博¹・小正浩徳²・赤田太郎³・友久久雄¹

(¹ 龍谷大学文学部・² 龍谷大学大学院臨床心理相談室・³ 龍谷大学短期大学部)

キーワード: 保育士 発達障害 自閉症スペクトラム

Research on Understanding of the Developmental Disability in Nursery Teacher

Kazuhiro SHIGENOI¹, Hironori KOMASA², Taro AKADA³ and Hisao TOMOHISA¹

(¹ Faculty of Letters Ryukoku Univ.,² Psychological Clinic Ryukoku Univ.,³ Ryukoku Univ. Junior College.)

Key words: nursery teacher, developmental disability, autism spectrum

目 的

前回の発表(滋野井他,2009)では,小学校への就学に向けた子育てにおいて障害児の発達支援を実施した父親を対象に,その発達支援の実態調査を行った。その結果,子育てにおける発達支援を実践していく際,保育園や母親と共有できる子どもの発達障害の理解に関する情報や,その情報を共有するためのサポートをしてくれる存在を父親が求めていることが示唆された。

このように,就学前の発達支援を行う家庭が求める子どもの発達障害の理解に関する情報を提供していく前提として,保育園と発達支援を実施している専門機関が発達障害についての理解を共有していくことが望まれる。しかし,則定ら(2009)によれば,保育士における発達障害の理解について,保育士を対象とした研修でも用いられる『自閉症スペクトラム』『自閉性障害』などの用語があまり理解されていないことが指摘されている。

そこで本研究では,保育園にて障害児への発達支援を実施している保育士が『自閉症スペクトラム』の説明に用いた内容を調査し,保育士における発達障害に関する用語の理解に見られる傾向について検討することを目的とする。

対 象 と 方 法

1. 対 象

保育園にて,障害児への発達支援を実施している保育士 15 名を対象に調査を実施する。

2. 方 法

①書面による調査:保育研修において『自閉症スペクトラム』について自由記述する。

②面接による調査:自由記述内容の確認を目的に実施する。

③分析の手順:自由記述内容を類型化し,その内容と対象者数を分析する。

結 果 と 考 察

《『自閉症スペクトラム』の説明に用いた用語の類型》

表1に示したごとく,『自閉症スペクトラム』の説明に用いた用語の類型で最も多かったものは「症状{12 名(80.0%)}」であった。ついで「支援 8 名(53.3%)」「知能{8 名(46.7%)}」であった。

表 1. 自閉症スペクトラムに関する説明

内容	症状	支援	知能	種別	原因
人数	12	8	7	5	2
%	80.0	53.3	46.7	33.3	13.3

これらの『自閉症スペクトラム』の説明に用いた用語の類型に見られた傾向は,保育士の専門性として発達障害を理解する上で,子どもの発達特性や支援の手立てを重視したためではないかと推察される。

《症状に関する説明に用いられた内容》

表2に示したごとく,『症状』に関する説明に用いられた内容で最も多かったものは,『対人関係に関する内容』の「他人と上手に関われない{5 名(33.3%)}」と『行動面に関する内容』の「こだわりがある{5 名(33.3%)}」であった。

表 2. 症状に関する説明に用いられた内容

	内 容	人数	%
対人関係	他人と上手に関われない	5	33.3
	他人と関わろうとしない	4	26.7
	自分の世界がある	2	13.3
行 動 面	こだわりがある	5	33.3
	多動	3	20.0
	興味のあることに集中する	2	13.3
言 語 面	コミュニケーション能力が低い	3	20.0
	言葉だけでは理解できない	2	13.3
情 緒 面	気持ちがコントロールできない	2	13.3
	パニックをおこす	2	13.3

《支援・知能・種別・原因に関する説明に用いられた内容》

表3に示したごとく,『支援に関する説明』には,「視覚的な情報がある{3 名(20.0%)}」「事前のスケジュール提示が有効である{3 名(20.0%)}」が用いられた。『知能に関する説明』には,「発達の遅れがある{3 名(20.0%)}」が用いられた。『種別に関する説明』には,「アスペルガー障害がある{3 名(20.0%)}」が用いられた。『原因に関する説明』には,「脳の障害である{1 名(6.7%)}」「先天性である{1 名(6.7%)}」が用いられた。

表 3. 支援・知能・種別・原因に関する説明に用いられた内容

	内 容	人数	%
支 援	視覚的な情報がある	3	20.0
	事前のスケジュール提示が有効である	3	20.0
	個別の支援が有効である	2	13.3
知 能	発達の遅れがある	3	20.0
	高機能である	2	13.3
	軽度である	2	13.3
種 別	アスペルガー障害がある	3	20.0
	自閉症の種類がある	2	13.3
原 因	脳の障害である	1	6.7
	先天性である	1	6.7

表2,3に示した具体的に『自閉症スペクトラム』の説明に用いられた内容から,保育士は発達障害に関する用語を理解する上で,実際に出会っている対象児の発達特性や保育の中で実施した支援の手立てといった個々の保育経験から得られたイメージを重視していることが伺える。保育士は,そのイメージを言語化して用語の説明をしている傾向が示唆された。

引用文献

則定小百合他(2009)保育士における発達臨床心理学用語に関する研究,日本心理学会第 73 回発表論文集,P.1128.
滋野井一博他(2009)障害児への発達支援のあり方—子育てにおける父親のあり方—,日本心理学会第 73 回発表論文集,P.321.